

八千代おこし→



解説が少なく、
わかりにくかったかと思しますので、
当日の補足資料をお届けします。

高萩市の子どもたちを どう育てるか？

教師教育学研究会

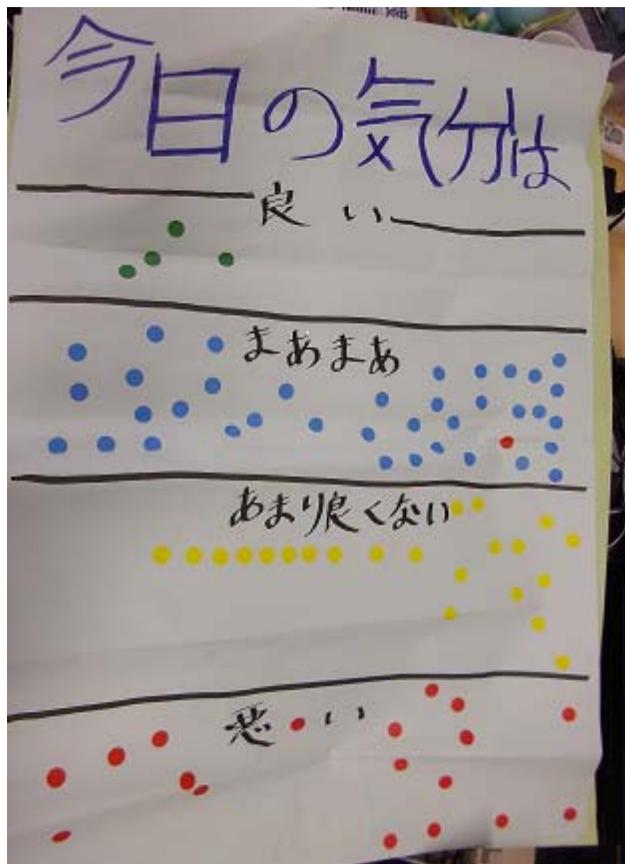
武田信子・横須賀聡子・坂田哲人・角藤翔太郎

研修のねらい

- ▶ 高萩の先生方が知り合う機会を提供し
高萩の子どもたちを育てるという意識の下に
教員コミュニティを形成することを目的とする
- ▶ 先生方が、自分の学校における活動全体を、
子どもの視点・将来という視点から振り返る場を設ける
- ▶ 教科指導を含む全ての活動を
生徒たちの生きる力につなげる意識を喚起する



今日の気分は



- ▶ 良い 4
- ▶ まあまあ 42
- ▶ あまり良くない 22
- ▶ 悪い 18

▶ 研修を受ける日の朝の気分は今一つ。

(子どもたちも毎朝こなふう?)

先生たちはいつも大変。

はじめに：高萩興しを担う？子どもたち

- ▶ 日本の地方都市は、過疎化の一方をたどっている。
- ▶ 高萩市でも、子どもたちは高萩を離れていく傾向がある。
- ▶ これからの高萩市を担う人材は、どこでどう育てていけばよいのだろうか？
- ▶ 子どもたちは、どんどん都会に行って活躍すればよいのか、地元に残って産業を支えていけばよいのか？
- ▶ 保護者たちは学校教育に何を求めているのだろうか？
- ▶ 教員たちは、子どもたちにどんな人生を歩んでもらいたいと思って、どんなふうに教育しようと思っているのだろうか？



アクティビティ

：高萩市の先生方150人に聞きました！

- ▶ 市内に居住している先生は半分
- ▶ 八千代おこしの名前はみんな知っている(が、どんなものか知らない先生も実は少なくない)
- ▶ 萩丸クッキーを食べたことはほとんどない
- ▶ 校則を先生も生徒も「絶対守らなくてはならない」とは必ずしも思っていない先生が大半である
- ▶ 「子どもの権利条約」を読んだことのある先生は少ない
- ▶ ほとんどの先生が、自分は高給取りではないと思っている(が、日本の平均をはるかに上回る給与を税金から得ている)

公教育は、市民の税金に対して
説明責任を負いますよね？

高萩市の教育は、子どもたちを将来
どんなふうに育てようとしているのでしょうか？



高萩市の15年後を考えてみよう

- ▶ 子どもたちは22歳から30歳。
社会人・市民としての責任を担う年齢になっている。
- ▶ 彼らは、どんな社会に生きているのだろうか？
- ▶ その社会で生きていくために必要な力は何か？
- ▶ その力を義務教育(教育の義務は子どもの義務ではなく、大人の義務)時代に、どこで誰から、身につけるのか？
- ▶ 彼らがそれらの力を身につけるために、学校教育にできることは何か？
- ▶ 自分の日々の教育における実践は、子どもたちの将来とどう結びついているのだろうか？



教材「で」教える。
何を？どんな力を？

子どもたちが働く社会

イノベーション25

内閣府が2006年にまとめた2025年の日本

社会の特徴

日本の人口減少・高齢化の急速な進展

日本の労働力の減少と、世界の経済勢力地図の変化

地域社会・情報化社会及びグローバル化の爆発的進展

知識・頭脳をめぐる世界大競争

世界中の消費者が外国の商品・サービスに容易にアクセス

地球の持続可能性を脅かす課題の増大

人口増加が、資源・エネルギー問題、環境問題、テロ問題、感染症問題等を深刻化

イノベーション25HPより転載 <http://www.cao.go.jp/innovation/index.html>

中長期目標 たとえば・・・

▶ 生涯健康な社会

睡眠時等の常時健康診断や生活習慣の改善を通じた予防医療が個人レベルで実施可能
再生医療技術、高度介護ロボット、対認知症特効薬などのおかげで「寝たきり」病人が激減

▶ 安心・安全な社会

多くの建造物が長寿命化・高容積化するとともに災害に強く住みやすい住宅づくり・街づくり
地震、津波等の自然災害時においても高度な予測技術・災害情報ネットワークにより被害が減少

▶ 多様な人生を送れる社会

テレワークの普及により、自宅で仕事をしながら子育てができる生活が普及
人工知能ロボットにより、家事・育児にかかる時間を自分の時間として持つことが可能

▶ 世界的課題解決に貢献する社会

省資源・省エネ等世界トップレベルの技術を活用し、地球規模の環境問題の改善に貢献
環境ビジネスの拡大により日本企業の国際競争力が向上し、アジアの若者が日本で環境を学ぶ

▶ 世界に開かれた社会

自動翻訳機の普及等により、あらゆる国の人々とのコミュニケーションが可能
バーチャルリアリティ技術が進化し、海外の文化・歴史遺産など家に居ながら現実社会を実感

ぶつかれない車やお掃除ロボットなど、当時想定され技術のいくつかは、
既に実用化され、私たちの生活の中にあります。



ふりかえり

- ▶ 高萩市の教員は、15年後の社会を生きる子どもたちに、「何を教えた」「何を教える必要がある」と思って教壇に立っているのか？

＜皆さんのご報告及び模造紙からの抜粋＞

- ▶ あいさつ マナー 生活習慣 規範意識 自己コントロール 上下・師弟関係
- ▶ 食育 健康管理 働く喜び 集団生活
- ▶ 豊かな心 忍耐強さ 命の大切さ 自然との共生 優しさ 思いやり
- ▶ 友情 地域とのつながり 遊ぶ力 柔軟性 感性
- ▶ 体験 コミュニケーション能力 生活力 サバイバル能力 特技 実行力
- ▶ 思考力 判断力 学力 体力 ICTの力 情報処理能力 語学力 発信力
- ▶ 一般常識 よい加減 高萩弁 高萩の歴史 テストに出る知識 etc.

教員一人ひとり、大切にしているものが異なるが・・・
これらがどういうバランスで子どもたちに渡されるだろう？

OECD（経済協力開発機構）の キーコンピテンシー

【グローバルに生きる地球人の力】

- ①自律的に行動する能力（自ら進んで動く）
- ②社会的な異質の集団における交流能力
（多様な文化や意見の人としっかりと関われる）
- ③社会・文化的、技術的ツールを
相互作用的に活用する能力
（個人と環境との能動的対話のために、言葉・シンボル・テキスト・知識・情報・技術等のリテラシーを持つ）



子どもたちは15年後に対応できるか？

- ▶ 必要な力は、授業を通して、どのように教えられているのか？
- ▶ 学校生活を通して、彼らが学んでいることは何か？
 - ← 教師が教えることと、生徒が学ぶことは同じではない
- ▶ 学校では対応しきれないこと、する必要がないことは何か？
- ▶ 地域や家庭と協力することで効果が上がるものは何か？

- ▶ そもそも、高萩中、粒ぞろいのすばらしい子に育てるのか？
みんなで助け合い、補い合うすばらしい高萩にするのか？

どんなイメージを持っていますか？



改めて考えよう、高萩の教育

- ▶ 200人近い教員が、知り合って、話しあって、知恵を出し合ったら、高萩の子どもたちが、少し変わり始めるかもしれない。
- ▶ 大人が15年後に希望を持っていなければ、子どもたちは夢を持ってない。
- ▶ 聞こえにくくて、暑くて、長くて……ごめんなさい。

では、次は何をしたいですか？

あなただったら、どんな研修を？



午前中の研修、お疲れさまでした。



午後の研修（東小学校）@穂積家住宅

なぜ、穂積家住宅？

- ▶ 高萩市の文化財を知る
- ▶ 学校から離れて、普段と違うことをしてみる
(枠組み・発想を変える)
- ▶ いつもと違う同僚との体験を持つ(これからの視点の変化)
- ▶ 日本人が気楽に交流できるのは、お座敷(残念、畳でなかった...)



でも夏は暑かった！ですね



ワーク（1）

好きな先生のエピソードを挙げてみよう

なぜ好きだったか？

- ▶ 自分に関わってくれた
- ▶ 自分の力を伸ばしてくれた
- ▶ 容姿など、ひきつけられるものを持っていた。

→授業がうまかった、わけではない？

一方で、好きな先生のいなかった先生や
学校にいい思い出のなかった先生もいる
→自分はどんな先生になろうとしている？



ワーク（2）教師観を互いに語ってみよう

- ▶ すばらしい教師のイメージ
 - ▶ すばらしい教師の力量のイメージ
- ⇒二つのイメージの関係性は？

日頃の言動の背景にある、その先生ならではの歴史、想い。その重みを知り、そこに立ってみる。

取って代われない一人一人の人生、その尊厳。



例えば...

- (例1) 爆発・息吹・活気・飛び散る & ダリアの花・オレンジ
→先生も生徒も花開く
- (例2) 絆・勝利・何かを競って取ろうとする様々な手
& 荒野・一人・さまよう
→(ことばにならない精一杯の想い...)
- (例3) 自転車操業 & 大海原をヨットで進む
→道筋をつける・危険を超え、共に進んでいく
- (例4) 力の限り一所懸命 & 自分をさらけ出す
→飽くなき探究心
-



教師にはどんな力が必要なのだろう？

- ▶ 先生たちのキーワードに基づいて作られたコンピテンシーのリストを読んでみる。
- ▶ 自分たちの学校コミュニティ(東小の同僚たち)で、これらの力量がバランスよく発揮されているか？
- ▶ どこをどう強化すればいいのか？
あるいは、
どう助け合える体制を作ればいいのか？



コンピテンシーと同僚性

- ▶ 一般的にコンピテンシーとは
- ▶ 外交官、飛行士など、専門性の高い職業において、その分野で高業績を上げることのできる者たちに共通の能力の要素



しかし、学校教育の世界では、カリスマ教師が全校に一人いるよりも、そこそこの先生が支え合っている姿を生徒たちに見せることが大切では？

一人ではできなくても、みんなでやればいい。
完璧な先生なんていないし、人間らしく、不器用でも自分に関わってくれる先生が、生徒は好き。



いかがでしたか？

- ▶ 知識は増えなかったかもしれません。
- ▶ 技術も向上しなかったかもしれません。
- ▶ でも、同僚の知らなかった一面を知ったり、自分の忘れていた熱い思いを思い出したり。
- ▶ 子どもたちが少しかわいく思えたり。
- ▶ したら、よかったなと思います。

- ▶ ここまで読んでくださってありがとうございました。
- ▶ The End or continue.....



本研修の理解のために



<http://www.hijiyama-u.ac.jp/users/yokyohp/pdf/kiss200628.pdf>

発達心理学者 浜田寿美男先生の講演録です。是非、お読みください。



連絡先

- ▶ 武蔵大学武田研究室内 教師教育学研究会
 - ▶ 武田信子 武蔵大学 takeda@cc.musashi.ac.jp
 - ▶ 坂田哲人 青山学院大学
 - ▶ 横須賀聡子 水戸こどもの劇場
 - ▶ 角藤翔太郎 東京学芸大学大学院(修士)
-
- ▶ 〒176-8534
 - ▶ 東京都練馬区豊玉上1-26-1 武蔵大学人文学部
 - ▶ 03-5984-3778
-
- ▶ 参考:「教師教育学」コルトハーヘン著 学文社
 - ▶ 「実践コミュニティワーク」ビル・リー著 学文社
-